



山梨学院大学

# 経営ナビゲーション

## —ビジネス革新への航海図

No. 24-1

平成24年3月8日発行

山梨中央銀行  
法人推進室

甲府市丸の内 1-20-8

山梨中央銀行は、大学等の研究機関が有する知的資産とビジネスの現場とを結びつけ、企業経営のイノベーションや事業機会の創出を支援するリエゾン（橋渡し）活動に取り組んでいます。

本レポートでは山梨学院大学の先生方と、その研究内容を紹介していきます。中小企業のみなさまが肌で感じとったビジネスの現場の空気と、気鋭の研究者たちが取り組むアカデミズムの最前線が出遭うこのレポートが、新たなビジネスの「創発(emergence)」の場となることを期待いたします。

<第5回>



これから求められる  
社会貢献のカタチ

青山 貴子 先生  
(現代ビジネス学部 専任講師)

<<要点>>

- ・ 人と社会をよりよく結ぶためには、異分野同士の連携が必要となる。
- ・ 社会貢献活動を行ったとしても、その地域が抱える課題が見えていなければ、企業の自己満足となってしまふ。
- ・ 地域と営利企業との結節点となり得るのが非営利組織である。
- ・ 営利企業とNPO法人、ときには学生が連携することで、地域が本当に必要とする社会貢献活動を行うことができる。

■どのような分野を研究されていますか？

これまで、美術史・社会教育（生涯学習）・非営利組織のマネジメントという三つの分野を研究してきました。

■異分野を研究されている意義は何ですか？

ひとことで言えば、学際的な（いくつかの異なる学問分野が関わる）視点でものごとをみることができることだと思います。たとえば、美術館のマネジメントを考える際には、絵画の審美的価値付け（＝美術史的視点）だけでなく、その絵画を見に来た人がそこで何を学んでいるのか（＝教育的視点）を知ることが必要ですし、社会教育施設の資金繰りや組織管理（＝経営的視点）についても熟知している必要があります。複雑な実際社会をよりよく分析

するためには、従来の学問領域に縛られず、柔軟に異分野同士を結び付けていくことが重要だと考えています。私自身の研究関心の根底には「人と社会をよりよく結ぶ」という点があるのですが、これまで足を踏み入れた美術・教育・経営の研究領域をうまく結んでいきたいと思えます。

大学ではミュージアム・マネジメントという科目を担当しています。一般的な経営学ではあまり見ない科目ですが、様々なバリエーションのマネジメントを学生に学んでもらい、企業に対するマネジメントの見方を広くする一助になればと考えています。

#### ■現在の研究関心は何ですか？

現在の研究関心のひとつは、社会貢献活動における営利組織と非営利組織の関係構造です。たとえば一般的に“NPO”と呼ばれる組織は日本ではまだボランティア団体のようなイメージが強いかもしれませんが、アメリカでは有名大学の学生の就職希望先トップ10に優良なNPOがいくつも入っています。日本でも、企業＝「就職先」 NPO＝「余暇活動」というような捉え方でなく、戦略的に選択された組織形態の中で人々がどちらも仕事場とできるような仕組みづくりが必要でしょう。また、企業の方でも、メセナ活動やCSR（企業の社会的貢献）を考える時に、優良なNPOと連携するなど、両者を別世界の存在ではなく、同じ土俵で検討する視点が求められていると感じます。

#### ■営利組織と非営利組織とのマネジメントの違いは何ですか？

一番の違いは、非営利組織であるNPOのほとんどが組織の目的を「ミッションベース（課題解決型）」で考えているという点です。そのため極論を言えば、課題が解決されれば「解散」がゴールとなることもありえますよね。もちろん多くの企業も社会への貢献や課題解決を掲げていますが、少なくとも、非営利組織は「利益」や「組織の継続」を追求するマネジメントとは異なるといえます。

#### ■非営利組織のマネジメントの研究は、どのように行っているのですか？

アクションラーニング（※1）や、アクションリサーチといった研究方法をとり、非営利組織の活動に直接参加をすることで、「ヨソモノ」とならない適度な距離感で意見交換をするなかで研究を進めています。また、サービス・ラーニング（※2）に適した組織があれば、学生を参加させ、実践的学習の場にしたいとも考えています。

※1 アクションラーニング…現場での現実的な問題について検討し、その解決策を実践する、というプロセスを通して学習効果を得ること。  
（アクションリサーチもほぼ同意）

※2 サービス・ラーニング…学校の教室における学習と、地域で行われる有意義な奉仕活動を組み合わせた教育方法。

#### ■非営利組織が抱える課題は何ですか？

非営利組織の一番の課題は、資金調達が難しいということです。活動自体は、やりがいもあり効果もありますが、資金がないため、思うような活動ができないのが実情です。

一方で、営利組織である企業にも逆の課題があります。それは社会貢献活動としての「結果」がついてこないということです。CSRとして活動をして、あまり地域に浸透せず、地域の人々に知ってもらえなければ、ただの自己満足となってしまいます。資金があっても、

地域が抱える課題の本質が見えていないため、結果がついてこない場合もあります。

■非営利組織と営利組織が連携することでお互いの課題が解決されるということですか？

近年、営利組織の中にもCSR活動を行う企業が増えてきており、非営利組織の活動は営利組織と地域の人々が結びつく接点になると思います。両組織の活動が“融合”しつつあるといえるでしょう。両組織が連携すれば、それぞれが抱えている課題を解決でき、より良い社会になると考えられます。大事なのは活動することだけでなく、形にしてつなぐことです。

例えば、企業に望むCSR活動を学生が提案し、非営利組織や学生と共同で企業が社会貢献活動を行っていくのも良いと考えています。こんなことをしてほしいという地域の生の声を企業が拾い、形にすることで地域の課題に根ざしたCSRとなるのではないのでしょうか。

■研究されていくうえで、何か課題はありますか？

県内の企業、特に中小企業の方の声を聞く機会が少ないことです。小さい会社だからといって、CSR活動を実践し、地域にアピールする意味がないわけではありません。余力がないかもしれませんが、やる価値はあります。足りない部分を、非営利組織や学生が補えるかもしれません。

そのため、山梨中央銀行にはネットワークを活かして、さまざまな企業の声を拾うことに取組んで欲しいと思います。異なるもの同士が出会うことで面白いことが起こり、連携することでより良い社会を作ることができるはずで

“非営利組織のマネジメント、営利企業との連携”についてご相談がある方は、山梨中央銀行 営業統括部 法人推進室

TEL：055-224-1091

まで、お気軽にご連絡・ご相談ください。